

# ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

January, 2023  
No.43

## 全国大会特集号

発行 : 映像メディア英語教育学会事務局  
(旧映画英語教育学会)  
住所 : 〒605-8501  
京都市東山区今熊野北日吉町35  
京都女子大学 文学部  
横山仁視研究室内  
E-mail : office@atem.org

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

### ■会長挨拶

**ATEM President**  
**Hitoshi YOKOYAMA**  
(Kyoto Women's University)



横山 仁視 (京都女子大学)

日頃は ATEM の活動に対してご理解いただき、ご支援・ご協力をはじめ貴重なご意見をお寄せいただきまして、心から感謝しております。

冒頭にあたり、11月5日(土)、6日(日)の2日間にわたり開催した「第27回 ATEM 全国大会」にご参加いただきました ATEM 普通会員・賛助会員の皆様、姉妹学会である韓国 STEM の皆様(両日とも100名以上の参加者あり)に心から感謝申し上げます。昨年度に引き続きオンライン開催となりましたが、昨年度のノウハウを活かし予定通りに両日のプログラムを実施することができましたのも、参加者・発表者の皆様のご協力あつてのことであり、一方では、全国大会運営委員会の綿密な計画と、各発表教室の担当責任者の先生方の緻密な運営管理の賜物であったことは、言うまでもありません。改めて関係者の皆様に謝意をお伝えさせていただきます。諸先生方のメディアを英語教育に応用した研究・教育の幅の広さを改めて感じた刺激的な大会となりました。オンライン開催の利点を活かした今大会でしたが、今後は2024年には対面大会が再開できるよう準備を進めて参ります。

全国大会の総会を機に本部専務理事の役職に次の通り異動が生じました。

【副会長】(退任) 井村誠先生 (大阪工業大学)  
小林敏彦先生 (小樽商科大学)

(就任) 藤枝善之先生 (同志社大学)

ライアン・スプリング先生 (東北大学)

井村先生におかれては、国際交流委員長としても10年に渡り、STEM とのパイプ役としてご尽力されてこられました。この紙面を借りて学会を代表し、長年の労に対して感謝の意を伝えさせていただきます。井村先生の後任として、ライアン・スプリング先生が国際交流委員長兼副会長として就任されます。小林先生におかれましては、北海道支部長として支部基盤を築かれ、その手腕を本部の企画運営に発揮してこられました。この度諸事情によりしばらくお休みされることとなりました。近い将来復帰していただけることを願ってやみません。

現在横山は 会長任期の2期目ですが、規定により2024年の全国大会で任期を終えることとなります。現在 ATEM が抱えている諸課題を解決し、新たな道筋を提案することを前提に、副会長の職務を整理します。藤枝先生には国内の課題を中心に、スプリング先生には STEM との学術交流の促進と英語母語話者の新規会員勧誘を中心に、それぞれ学会全体を見渡していただきます。

最後に2点お伝えします。一つ目は、新年度4月から現在の会員管理システムから新たに「MiT+ (ミータス)」稼働に向け準備を進めています。二つ目は、広真アド様より事務局を引き継いで初めての決算報告書の作成および会計監査を行い、「第28期 決算報告書」(8ページ)を総会で承認を得て本紙に掲載をしております。皆様の年会費をはじめ、月単位での出入金の記録を担当者が変わっても Excel で管理できるよう仕様を変更しました。会計担当の金田直子先生には感謝申し上げます。

## ==== 全国大会報告 ====

第27回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会  
大会テーマ:「気づき」を通して

## コミュニケーション力を高める

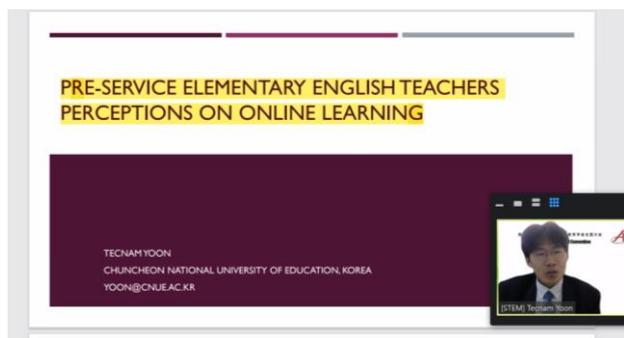
Improving Communication Skills through  
Multimedia: Focusing on “Perception”

2022年11月5日(土)・6日(日) オンライン開催

## ■ STEM 特別発表

Pre-service Elementary English Teachers'  
Perceptions on Online Learning Platforms in  
KoreaProfessor YOON Tecnam (Chuncheon National  
University of Education)

Yoon 先生



ご発表スライド

コロナ禍はオンライン授業を普及させ、デジタルインフラの整備を加速させた。その結果、授業形態は変容を迫られ、その影響はむしろ、初等教育から高等教育まで全ての段階に及んでいる。

この研究発表は、韓国における初等英語教育に焦点をあて、小学校教員任用前の大学生を対象にオンラインの実験授業を行って、その反応を調査したものである。

参加者は、メタバースをプラットフォームとする同時進行の英語授業を受けたグループ(実験群)と、前もって録画された動画による授業を受けたグループ(統制群)に分けられ、授業は4週にわたって続けられた。実験開始前と実験終了後のアンケート調査の結果、授業理解と満足度の両面において、実験群が優位に勝っていることが示されたことが報告された。

韓国では、日本に先駆けて初等英語教育が2006年に導入されている(日本で初等英語教育が試験的に導入されたのは2011年度であり、その後、2020年度より小学校3年次から英語教育が必修化された)。教育の分野に関わらず、公共交通機関を含む日常生活におけるキャッシュレスシステムの普及などを見ても、韓国はデジタル化において遥かに日本の先を行っており、我々が学ぶ点が多い。デジタル・ネイティブと言われるZ世代が既に大学生となっている時代に、デジタルメディアをコミュニケーションツールとして活用できる能力が、教員に一層求められている。

補足ながら、発表者のYoon教授が務めるChuncheon National University of Education(春川教育大学校)は、韓国北東部の軍事境界線に接する江原道春川市にある国立の教育大学で、春川市はテレビドラマ「冬のソナタ」のロケ地としても知られている。

(井村 誠)

## ■ 特別ワークショップ

## Perception: The Key to Effective Communication

MCVAY Paul Chris (麗澤大学名誉教授)



McVay 先生



ご発表スライド

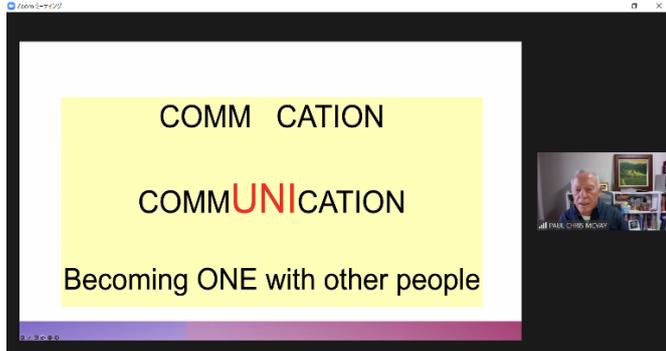
ワークショップという名にふさわしく、マクベイ先生からの様々な問いかけに対して、われわれ聴衆も一緒に考える参加型だった。主な内容を私なりに要約してみた。

他者と繋がりたいという人間の根源的欲求にもかかわらず、コミュニケーションは様々な「ノイズ」によって阻害される。知覚もその一つで、私たちが何かを「現実」として見る（知覚する）ときには、個人的、文化的、社会的要素に影響される。その意味で、全ての人の「現実」はそれぞれユニークなものである。言葉ひとつをとっても、生きてきた環境や経験によって意味が違う。だから、言葉の意味は言葉の中にあるのではなく、使う人の中にある。（“Words have no meaning. People do.”）

同じ絵や写真でも、見る角度や見方によって違うものが見える。意味は見方によって決まるのである。「二つの水瓶」(The Two Pots) の物語も同じことを教えている。水をこぼす穴開き水瓶は役立たずなのか？別の例では、長年連れ添った最愛の妻を亡くしたことで、重い鬱病を患ってしまったある年配の男性を、どの医者も助けることができなかった。しかしある日、ホロコースト生還者のヴィクトール・フランクル博士からある問いを投げかけられたことで、男性はうつ病から回復した。その質問とは？現状を変えることができなくても、その状況に対する見方は必ず変えられるということだ。

「ノイズ」を避ける秘訣は、Nescafé の CM 曲 “Open up” を思い出すことだ— “Open your eyes, open your mind, open your ‘heart’” [オリジナルは open your thoughts]。そうすれば、皆さんはすぐれたコミュニケーターになり、本当の global citizen (地球市民) になれるだろう。

往々にして特定の科目内容を教えることや学ぶことにばかり気を取られがちな教員や学生であるが、教育や学びの根本的な姿勢について再考させられる有意義な時間だった。



ご発表スライド

(日影 尚之)

## ■表彰式・総会

まず、横山会長から理事の一部交代が発表され(スプリング先生が国際交流委員長と副会長の職に、藤枝先生が副会長の職にご就任)、



司会の巳波先生

退任される井村先生とスプリング先生、藤枝先生が挨拶をされました。その後、事務局会計担当の金田先生より第 28 期決算報告が、続いて事務局長の藤枝先生より会則変更案の提案があり、両事案共に承認されました。

(巳波 義典)

## 会員著書 (2022 年度)

- 大月敦子、カレイラ松崎 順子、Ryan Spring (著) 瀧口優 (監修) 『動詞キーワードで学ぶアクティヴラーニング英会話ワークブック』メトロポリタンプレス
- 倉田誠『映画でひもとく英語学』くろしお出版
- 松中完二「多義の原理についての認知意味論的考察—意味拡張の有契性について—」山梨正明編『認知言語学論考 No.16』ひつじ書房
- 茂木謙之介・大嶋えり子・小泉勇人 (編著) 『コロナとアカデミア』雷音学出版
- Chino Yabunaga, Madoka Watanabe, “The Welfare State and COVID-19 Countermeasures: The Relationship of Trust and Cooperation between Citizens and Their Governments in Sweden and Finland,” Noriko Suzuki, Xavier Mellet, Susumu Annaka, Masahisa Endo (eds.), *Public Behavioural Responses to Policy Making during the Pandemic: Comparative Perspectives on Mask-Wearing Policies*, Routledge.

## SIGs (Special Interest Groups)とは？

支部内および支部の垣根を越えた研究・教育活動の促進を目指して設立されたグループです。既に申請されているSIGsの詳細につきましては、本学会HPをご参照ください。各SIGへの質問等は、直接代表者の方へご連絡ください。

### ■ Session 1 Room A

(文化・文学／映画分析研究会)

#### 映像メディアにみるポリティカルコレクトネス



(左) 秋好先生

(右) 石田先生

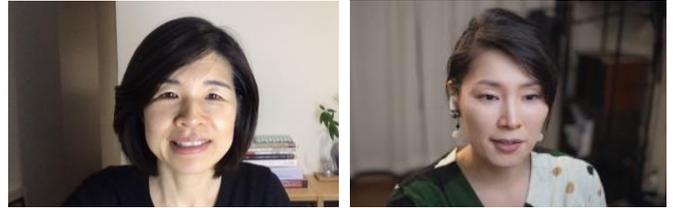
映画やYouTubeなどにアップロードされている映像メディアは、多かれ少なかれ、制作された時代の社会風潮に影響を受け、それに沿う形であれ反発する形であれ、その時々時代の価値観を反映していると言えるだろう。本シンポジウムでは、映像メディアに映し出された多様性の描出の仕方を、特にジェンダーに関わる表現に焦点を当てて考察することを目指した。まず石田先生は、空港などでのパブリックアドレスにおける「表現の変化」に関する考察を行った。SDGsの実現が求められる昨今の風潮に合わせ、これまで丁寧な表現・マナーとして使われてきた言葉が、「ジェンダー平等」の実現にとっては妨げとなるものとして扱われるようになってきていることを、具体例を挙げて検証した。秋好は、映画製作者側が映画を観る者の反応にどう配慮しているかについて考えるため、映画 *West Side Story* の1961年版と2021年度版を比較し、特に女性登場人物の描き方が複層的になっていることに注目した。

(秋好 礼子)

### ■ Session 1 Room B

(SIG on Shikaku Eigo/Examination English)

#### Building an Original Database to Facilitate the Development of a TOEIC® Listening & Reading Textbook for Novice-Level Learners



(左) ラムステン先生

(右) 金田先生

本シンポジウムでは、まずラムステン先生が、資格試験英語研究SIGの有志が作成した独自のTOEIC® L&Rテスト(以下「TOEIC」とする)データベースが、TOEIC400点取得を目指す初学者対象の教科書作成に使用されたことを説明した。この教科書で繰り返し学習される語彙や表現(以下「コア表現」と呼ぶ)は、データベースに高頻度で生起することが確認されている。この後、実践例を紹介し、学習者自身が映画などから重要表現を抽出することは難しく、教師からの提示が必要であることを示唆した。次に、金田先生は、コア表現を学ぶことでTOEICを受験する際に学習者が正答を見つけたり問題内容を理解したりしやすくなり、ひいては学習者の動機づけや自信の向上につながることを、ある学生を指導した際の事例を交えて発表した。

(種 寛美)

#### その他のSIG

※詳しくはATEM HPでご確認ください。

- ビジネス英語研究会
- 医療英語研究会
- 外国語学習向上のための映像メディア作成研究会
- 映画映像とコーパスによる文化的英語研究会
- 資格試験英語研究
- 英語学研究会

## ■ Session 2 Room A

(ダイバーシティ研究会)

### 英語教育とダイバーシティ

本シンポジウムでは英語教育とダイバーシティについて議論をした。田口雅子先生の「高校生の差別に対する意識を探る：『タイタンズを忘れない』を使用した授業実践」では、人種差別を描く映画を題材に行った字幕制作をメインとする授業実践について報告がされた。北間砂織先生の「PEANUTS で学ぶダイバーシティ」では、作品中で人種や性別などがいかに描かれているかを扱った大学の講義の実践報告がされた。松田愛子先生の「翻訳と役割語とダイバーシティ：キャラに合う言葉遣いとは」では、特定の人物像を連想させる「役割語」に注目し、多様性が話題となった映像作品が紹介された。斉藤の「英語教育でダイバーシティをいかに扱うか：クリア・ペダゴジーという視点」では、英語教育においてジェンダーについて教える際の枠組みについて議論がされた。



(左上) 田口先生 (右上) 斉藤先生  
(左下) 北間先生 (右下) 松田先生



発表中の様子

(斉藤 巧弥)

## ■ Session 2 Room B

(SIG on the English of Multimedia)

### Development and Implementation of English Video Materials Based on Movie Data



(左上) Otsuki先生 (右上) Spring先生  
(左下) Hamagami先生 (右下) Nakamura先生

本 SIG は、学習者の実用的な英語習得を目指し、映画コーパスや動画コーパスの用例を分析することで、従来の学習過程の見直しを提案することを目的としている。本大会では、41 種類の間接的な英語表現（例えば、「間接的な謝罪」を含意する“...won't happen again.”など）に着目し、コーパスを用いて学習用の会話スクリプトを作成し、学習用動画を 82 種類作成した ([https://www.youtube.com/channel/UCdsLTrNw-2soPITlzYC\\_Luw/channels](https://www.youtube.com/channel/UCdsLTrNw-2soPITlzYC_Luw/channels))。また、学生におけるその動画の学習効果を調べた。結果として、映画／動画コーパスが学習動画作成に大変有益であることが再認識された。学習効果については、視聴した学生においてその成績に改善が見られた ( $p < 0.001$ )。さらに、動画の字幕機能や再生速度設定を学習者が使いこなすかどうかは成績の改善に関与することがわかった。今後の課題として、学習者に更なる動画の使用を促し、長期的な学習効果を調べたい。



作成した動画の1シーン

(濱上 桂菜)

## ■第27回全国大会研究発表一覧

タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。

敬称略。

////////////////////////////////////

### 【Session 1】

「1 回限りのできた」と could—映画を活用した指導法の一試案—

石原 健志 (大阪星光学院中学・高等学校)  
飯田 泰弘 (岐阜大学)

Borders and Border Crossings: Some Thoughts on How to Use Pixar's *Coco* (2017) in an American Studies Class

HIKAGE Hisayuki (Reitaku University)

How Much Are Pre-Service English Teachers Ready for the Endemic?: Action research on integrating ICT course with training and online teaching practice

LEE Yoo-Jean (Kangwon National University)

### 【Session 2】

映画『フリーダム・ライターズ』(2007)が高校生に与える寛容の精神 [録画発表]

遠藤 未央 (藤女子高等学校)

What Happens When Students Are Required to Summarize Sitcoms in English?

IWASAKI Hirosada (Tsukuba University)

How Content Teachers Support High School Students with Academic English in Online EMI Classes

HONG Jiye (Sungkyunkwan University)

### 【Session 3】

複数の映画から学ぶ自己アピールの仕方とオンライン面接に向けた動画作成による気づき

塩見 佳代子 (立命館大学)

Implementation of Content-Based Instruction in Upper-Secondary Education in Japan

WAKAYAMA Norio (Asahi University)

College Students' Perceptions of Online Learning: A survey study of Korean EFL learners

CHOI Jong-Gab (Chuncheon National University of Education)

### 【Session 4】

大学英語教育における動画を用いた文法指導の実践と効果

呉 春美 (神奈川大学)

堀江 恭子 (神奈川大学)

小林 香織 (神奈川大学)

The Short Film as a Tool for Teaching English for General Academic Purposes (EGAP)

KAVANAGH Barry (Tohoku University)

Pursuing Contact and Communication Skill Development in a Blended Learning Environment through a Student-led Online-Offline Reading Project

PARK Sunhyun (Sungjae Middle School)

### 【Session 5】

アプリケーションを応用したオンデマンド型クラスのコミュニケーション作り

関口 美緒 (名古屋大学)

Designing Promotional “TopTen” Multimedia Narrated Presentations

BARR Michael (Kyoto University of Foreign Studies)  
Gamified English Language Learning Experiences in Metaverse for Reading Newspapers: A Class Case from a South Korean High School

PARK Sung-min (Konkuk University High School)

### 【Session 6】

「動詞キーワードで学ぶアクティブラーニング英会話ワークブック」の開発

大月 敦子 (専修大学)

Effective Strategies for Using Bulletin Board Websites in the Teaching of Film Courses

NORTON Philip (Kyoto Sangyo University)

University Students' Preferences towards Synchronous and Asynchronous Blended Learning Activities Returning to Face-to-face Classes

IRVIN Christopher (Dankook University)

### 【Session 7】

映画『モーリタニアン 黒塗りの記録』(2021)で考察するコミュニケーション効果

塚田 三千代 (映画アナリスト・翻訳家)

The Potential for Zoom as an In-Class Communication Tool in a Post-Pandemic World

SHEWACK Eric (Tokyo Keizai University)

Ethnographic and Virtual Linguistic Landscape Activities for Language Awareness

JANG In Chull (Daegu National University of Education)

### 【Session 8】

Movie-MET の初期研究

—『オズの魔法使』(1939)の会話音声の場合—

飯田 泰弘 (岐阜大学)

A pilot study of an automated interactive speaking game for low-level learners: Student perceptions and teacher observations

SPRING Ryan (Tohoku University)

Artificial Intelligence (AI)-Based English Speaking Activities for Korean Primary School Children and Its Effects on Their Affective Factors

LEE Seungbok (Chuncheon National University of Education)

### 【Session 9】

Systematic Review on Possibilities to Use the Online Survey as a Qualitative Research Tool in the Field of English as a Foreign Language Research [Video Presentation]

PARK Seong Man (Dankook University)

What Has Changed? Post pandemic learning in ESL

LEE Yun Joon “Jason” (Daegu National University of Education)

## ■支部だより

### 【北海道支部】

◆本年4月10日から毎月10日開催の支部研究会に合わせ、カジュアルな情報交換の場として「マイシェア」を開催してきました。研究発表から最近の（英語教育に関する）困り事など、ジャンルを問わず共有する場です。他支部・非会員の方もご自由に、申し込み不要で参加いただけます。（詳細は支部HPをご参照ください。）

◆4月から北海道支部のTwitter (@ATEMhokkaido) とFacebookの運用を開始しました。支部情報（運営会議、会員の研究紹介など）と英語教育ミニコラムをそれぞれ週に1本ずつ投稿しています。支部メンバー5名で運営しており、英語教育に役立つ情報満載です。

（支部長：斉藤 巧弥）

### 【東日本支部】

◆3月の支部大会後は、SIGごと全国大会に向けた研究活動を継続しました。そして、支部大会の時期を以前のように12月に戻すことにしました。

◆新たな試みとして、2022年4月より、支部HPに「東日本支部便り」という月ごとのコラム掲載を始めました。これは、英語教育に携わる教員や関係者が英語教育／映画・映像／言語などについての小論を執筆し、会員間で役立つ情報を交換・共有することを目指す支部プロジェクトで、ゆくゆくは他支部の会員や縁のある方を招いての投稿も計画していますので、是非ご一読ください。

（支部長：日影 尚之）

### 【西日本支部】

◆第19回西日本支部大会を2023年3月5日（日）に、昨年度と同様、オンラインで開催いたします。今回のプログラムは、西日本支部が継続的に取り組んでおります著作権についての勉強会や、「中学・高等学校の英語授業で映像メディアを活用する」というテーマでのワークショップも企画しております。また、今年9月には、支部設立20周年を記念した支部大会も計画しております。詳細につきましては、支部のHPやTwitterで、情報を発信させていただきます。

（支部長：近藤 暁子）

### 【九州支部】

◆8月27日（土）に、第24回九州支部研究大会を開催しました。支部としては3度目となるZoomでのオンライン開催でした。当日は研究発表が5件とシンポジウムが行われました。ベテランから若手の大学院生まで、幅広い世代から多様な観点のご発表があり、とてもいい刺激をもらえる大会となりました。大会後の「オンライン親睦会」では、おひとりずつ近況報告や発表へのコメント等をいただきました。大会中とはまた違った、リラックスしたムードでの楽しいひと時となりました。

（支部長：吉村 圭）

## ■委員会だより

### 【ジャーナル編集】

◆ATEM ジャーナル第28号には10編の論文の投稿がありました。ご投稿くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。ご投稿いただいた論文はそれぞれ3名の査読委員に審査いただきました。査読委員の皆様にはお忙しいところご協力いただき御礼申し上げます。

◆現在、紙媒体で発行して皆様にお届けしているATEMジャーナルの電子ジャーナル化についても、今後、検討を進めていく予定です。

（委員長：足利 俊彦）

### 【国際交流】

◆コロナ禍により2020年度以来開催が見送られていた第24回STEM国際大会ですが、2023年度は現地開催の予定です。詳細は決まり次第お知らせいたします。

◆第27回ATEM全国大会ではSTEMから特別発表を含めて11件の研究発表がありました。

◆今大会をもって国際交流委員長を退任し、後任はRyan Spring先生（東北大学）になります。在任期間中の皆さまのご厚情に感謝申し上げます。

（委員長：井村 誠）

### 【大会運営】

◆11月5日～6日に開催された第27回ATEM全国大会は、両日とも100名以上の参加者を得て無事終了しました。ご協力ありがとうございました。

（委員長：藤枝 善之）

### 【会員管理】

◆2023年4月より、会員管理クラウドシステムMiiT+（ミータス）を導入いたします。すでにデータの移行が終了しているため、個人情報の変更がある場合には、ATEM事務局 office@atem.org に直接ご連絡をいただけますと幸いです。会員の皆様には何かとご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

（委員長：嘉来 純一）

### 【ICT】

◆この度、広報・連携推進担当理事の松田先生のご尽力によりATEM本部のツイッターが開設され、そのタイムラインを本部HPに掲載することとなりました。一度ご覧いただきフォローいただければ幸いです。またATEM Newsを通じて最新の情報を発信しておりますので、サイトへの再々のご訪問をお待ちしております。

（委員長：巳波 義典）

### 【Newsletter 編集】

◆全国大会では写真撮影にご協力いただき、ありがとうございました。来年度もよろしくお願いたします。

◆次の春夏号では、全国大会の情報の他、上記「会員管理」にありますように、会員管理クラウドシステムMiiT+についてもお知らせいたしますので、お見逃しのないようお願いいたします。

（委員長：秋好 礼子）

## ■決算報告

第28期 ATEM (映像メディア英語教育学会) 【決算報告書】					
2021年4月1日～2022年3月31日					
収入の部			支出の部		
前年度繰越		867,255	1 大会開催費	Zoom1ヶ月契約料 (11月6日全国大会)	9,570
1 一般会員年会費	2021年度分@5,000 214	1,070,000	2 ニュースレター発行費	ニュースレター印刷費 (No.40)	156,098
	2021年度分@3,000 1	3,000			
	2021年度分@10,000 7	70,000	3 ATEMジャーナル発行費	ATEMジャーナル印刷費 (抜き刷り含む) (第27号)	270,000
	2021年度分@20,000 1	20,000		封筒2色刷り	13,000
				上記封入作業代4点 (ラベル貼り込み等)	4,494
2 賛助会費年会費	2021年度分@10,000 5	50,000	4 学会HPドメイン更新料	消費税	33,749
	国際トラベル京都@5,000 1	5,000	5 ホームページ維持費	5年契約	21,425
	株式会社英宝社 @5000×2	10,000	6 研究活動費	サーバーレンタル代 (さくらネット7月から1年間)	5,238
	松柏社@5,000 1	5,000	7 事務用品費	支部活動助成金 (5支部×50,000円)	250,000
	桐原書店@30,000 1	30,000	8 通信費	備品他	0
			9 雑会費	郵送料・切手代他	5,536
3 大会参加費		0	10 理事会・遠隔地補助	言語系学会連合年会費	10,000
4 書籍売り上げ		0	11 消耗品費		0
5 その他売り上げ		0	12 懇親会費		0
6 受取利息		3	13 各種振込料	銀行振込手数料	5,819
7 リソナ銀行	口座作成時の預金	1,000	14 優秀論文賞副賞	副賞賞金	10,000
			15 冠婚葬祭費 (スクリーンプレイ、故鈴木雅夫氏)	電報代・お花代	20,821
			16 HP修正にかかる諸経費	交通費・宿泊費等 (新田・巴波)	69,000
			17 会計監査報酬費 (森 智幸公認会計士・税理士事務所)	報酬額	33,000
			18 事務局移転打ち合わせ出張旅費交通費補助 (東京)	契約打合せ (交通費・土産・駐車場代金他)	2,792
			19 前事務局電話代金	交通費 (横山・藤枝・金田)	79,060
			20 会計ソフト代	交通費 (藤枝)	1,720
			21 藤枝先生過払い		4,261
			22 横山先生支払い不足		0
					880
					△ 529
小計		2,131,258	小計		1,005,934
				小口現金	20,610
				みずほ銀行	100,136
				りそな銀行	621,013
				郵便振替口座 (ゆうちょダイレクト)	383,565
合計		2,131,258	合 計		1,125,324
				翌年度繰越金	2,131,258

※個人会員 346名・賛助会員 11社

2022年11月4日 上記の通り相違ありません

昨年度参考 ※個人会員 347名・賛助会員 11社

会計監査 森 智幸



## ATEM Clapper Board

- 第27回ATEM全国大会へご参加いただいた賛助会員は下記の皆様です。改めてお礼を申し上げます。朝日出版社 桐原書店 金星堂 成美堂 (50音順)
- 会費納入方法 (振込) については、本部HPをご参照ください。  
<http://atem.org/membership-fee.html>
- ATEMは今年からツイッターを始めました。ご興味のある方は下記までアクセスして下さい。  
[https://twitter.com/ATEM\\_news](https://twitter.com/ATEM_news)
- 諸般の事情により、優秀論文賞の発表を次号に延期します。  
(事務局)

### ～編集後記～

- ◇年末年始のお忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。
- ◇次号は2023年5月頃に発行予定です。

### <賛助会員一覧> 2022/11/30 現在 (50音順)

朝日出版社  
英宝社  
桐原書店  
金星堂  
国際トラベル京都  
コスモピア  
松柏社  
成美堂  
センゲージラーニング  
モデル・ランゲージ・スタジオ

※当NL掲載の固有名詞は、各社が商標として使用している場合があります。

[ATEM Newsletter 編集委員会] 2023.1.10 現在

委員長：秋好礼子 (九州)  
委員：田口雅子 (北海道)  
杉浦綾子 (東日本)  
衛藤圭一 (西日本)  
石田もとな (九州)



©ATEM All rights reserved.